

中庭ウッドデッキテラス OPEN!

令和8年4月に中庭がリニューアルオープンしました。
元々あった赤松を残しつつ、ウッドデッキを新たに整備しました。屋外で読書を楽しんだり、ご家族やご友人とゆったり会話を楽しめる憩いの場となっています。
ぜひ、新しくなった中庭にお越しください。

おすすめポイント

①屋外で のんびり読書

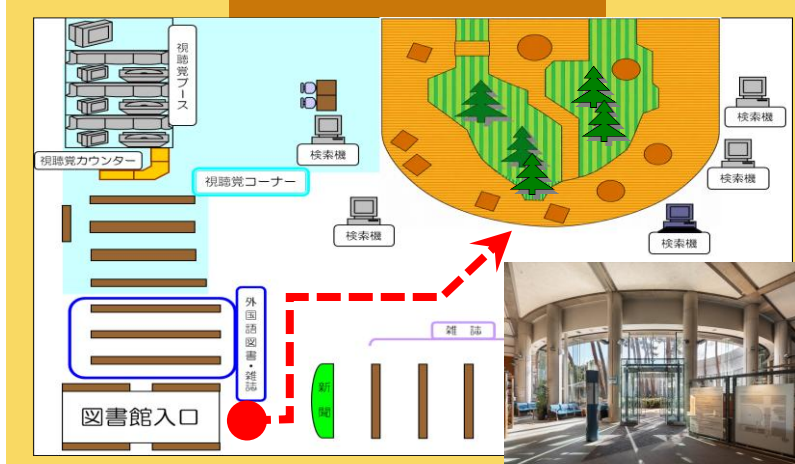
図書館で借りた本を中庭で読むことができます。屋外ならではの開放的な空間で、いつもと違う気分の読書ができます。

②飲み物片手に休憩OK

ベンチやテーブルで飲み物を楽しみながら、ひと休み。読書の合間のリフレッシュもおすすです。
※汁気の多い食品、密閉できない容器の飲料は持込不可となっています。

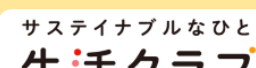
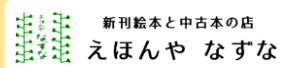
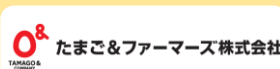


案内図



雑誌スポンサー 随時募集中

図書館からつくばの教育を応援して下さる雑誌スポンサーの皆さまです 令和8年度 雑誌スポンサー (令和8年5月現在)



つくば市立
中央図書館



開館時間 9:30~19:00 ※特別開館日は17:00閉館
休館日 月曜日・祝祭日・年末年始・その他館内整理日
住所 つくば市吾妻2-8 電話番号 029-856-4311
駐 車 場 北2・南2駐車場の駐車券持参で2時間無料
自転車駐 車 場 中央図書館南:駐車証明書持参で1日サービス券あり
中央公園東・中央図書館西:2時間まで無料

ヨモツカ yomocca

公園通りの図書館通信
2026年(令和8年)8月発行 No.25
発行：つくば市立中央図書館

『食堂のおばちゃん』『婚活食堂』シリーズが当館でも人気の
松本清張賞作家

山口恵以子先生にお話を伺いました！

YAMAGUCHI EIKO

—中央図書館中庭にて

5月10日、小説家山口恵以子先生の講演会が中央図書館にて開催されました。それに先立ち、創作の裏側、編集者とのやり取りなど、執筆の周辺について気さくに話してくださいました。



「好きで通っていた、あそこのおでん屋がモデルになっています」

一食と人をテーマにしたシリーズが当館でもよく読まれています。書かれる時、食の場面とストーリー、どちらが先なのでしょう？
そうですね、『食堂のおばちゃん』『婚活食堂』『うれしい居酒屋』という食の3シリーズがあるんですけど、料理で書き分けたりということはあります。いい料理に出会った時に、「あ、あのシリーズで使おう」と思ったり。

—『婚活食堂』に出てくるおでんが本当においしいそうです。

あれはモデルがあるんですよ。40年くらい前「銀座九丁目」というおでん屋さんが新橋近くのビルの地下にありまして、職場の近くだったものですから好きで通っていたんです。牛スジとかツミレは、あの店の味がモデルになっています。場所は変わりましたが、今もお店はありますよ。



『婚活食堂』
山口恵以子／著
PHP研究所



私のルーティンは、日があるうちは書く。日が暮れたら読む。

—「図書館」や「本」とのつきあい方で、心に残るエピソードはありますか？

2013年に『月下上海』で松本清張賞をいただいたんですが、その頃は今ほどネットで調べるということがなかった時代で、調べものといったらやっぱり本なんです。歩いていける距離に図書館があったので、借りて調べるということもやっていました。すごく思い出深いのは、里見甫(さとみはじめ)というアヘン王といわれた実在の人物をゲスト出演で書きたいと思っていた時のことです。接点もなくどうしようと思っていた時、私が通っていた葛西図書館で『日動画廊社史』というぶ厚い本に当たったんです。開いたら里見について書いてありまして、「あ、これでいける」と思いましたね。書いていると、そんな運のいい小説ってあるんです。



『月下上海』
山口恵以子／著
文藝春秋

—新作の刊行が続いています。7年ぶりの書き下ろし小説『手配する女』は、どのように生まれたのですか？

2017年に積水ハウス詐欺事件が報道されたんですね。それをモデルにしたNetflixのドラマがありましたが、小池栄子さんが演じた手配師の役ね、あれは実際の事件では秋葉紘子という73歳の女性なんです。で、彼女の表の顔は清掃員だったんですよ。それを知った時、「これは私が書くべき話だな」と思いました。というのも、松本清張賞をとるまで私は12年間食堂で働いていまして、当時「食堂のおばちゃんが受賞した」と話題になったりしました。早朝、始発電車にのって仕事に向かうんですが、秋葉もきっと「掃除のおばちゃん」として、同じ景色を見ていたんじゃないかな……と思いました。「事件」を書く人はたくさんいます。だから事件を書いたら負けちゃうんで、私は「事件を書くのはやめよう。人間を書こう」と思っています。紆余曲折あって時間がかかってしまいましたが、ようやく今年刊行することができました。



『手配する女』
山口恵以子／著
新潮社

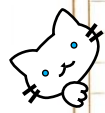
山口恵以子先生にお話を伺いました！

「アウトプットの
仕事は
日のあるうちに
インプットの
作業は
日が暮れてから」

—作品を書くために、何か日常的にされていることはありますか？

いや～ないですね。とにかく私は日のあるうちは小説を書いて日が暮れたら酒をのんでいるので。あのね、メールを打つとか、電話をするとか、アウトプットの仕事は日のあるうちに、音楽を聴くとか小説を読むとか映画をみるとか、インプットの作業は日が暮れてからやるというですよ。

インタビューで図書館員はうなずいた！ 山口先生 名言録



「だから
資本主義の
花はね、
営業ですよ」

「卵サンドに始まり、
卵サンドに戻る
って感じですね」

初の児童書『給食のおばちゃん』シリーズの誕生の裏には編集者の方とご縁があったそうです。「私はまだ一冊も書いてないのに、全国の書店回りについてきてくださったり、ゴハンと一緒に食べたりと、情が湧いて、もう書くしかないと思いました。だから、資本主義の花はね、営業ですよ。AIで営業できないですから」

一番好きなサンドイッチはなんですか？とお伺いしたら、「卵サンドです」と即答。「私、卵の好きなエコちゃんっていわれたくらい卵料理が大好きなんです。サンドイッチは、卵サンドに始まり、卵サンドに戻る、って感じですね」

先生は猫好き
としても知られています！

山口恵以子先生講演会

5月10日、つくば文化会館アルス2階アルスホールにて、山口恵以子先生による講演会「山口恵以子の創作秘話～書いて書いて書いて 現場を訪ねる我が人生～」が開催されました。主催はつくば市立中央図書館、コーチャンフォーつくば店協力にて、約80人が来場し多くの参加者でにぎわいました。



○会場の様子。多くの方が来場されました。



○サイン会ではおひとりおひとりに丁寧にサインをし、声を交わされました。

「筆一本でやろうと思い
食堂をやめてしまいました」

講演会の中ではこれまでのご自身の作家人生について、率直な言葉で話され、参加者は熱心に耳を傾けていました。食堂で働きながら小説を書いていた当時のことや、退職してから食堂小説がシリーズ化された秘話などについても紹介されました。会場では時折笑い声もあり、和やかな雰囲気の中、講演は進行。講演会後にはサイン会も行われました。直接言葉を交わしながらサインを受け取る姿もみられ、貴重な交流の時間となりました。



参加者の声

～講演会に参加された方の感想～



山口先生のユーモアを交えたお話に1時間があっという間でした。年に10冊以上の新刊を出版される作家生活の一端を垣間見させて頂きました。一冊でも多くの本を世に送り出したいとの強いお気持ち、覚悟が伝わる講演でした。

作家になるまでの道のりや執筆活動の大変さを語りながらも、笑いの絶えない講演会でした。撮影会やサイン会でも気さくに応じてくださり、山口先生の温かい人柄に触れることができました。



山口先生らしい、食と人の話にすっかり引き込まれてしまいました。今日の話を聞いて改めて「食と酒のシリーズ」を含め、本を読み返したいと思いました。



山口恵以子先生作品



『風待心中』
山口恵以子/著
PHP研究所

江戸深川を舞台に、男と女、親と子の葛藤が渦巻く長編時代小説。



『いつでも母と』
山口恵以子/著
小学館

山口先生のエッセイ集。最愛の母と過ごした最期の日々を温かな筆致で克明に綴っている。



『めしのせ食堂』
山口恵以子/著
小学館

女将の自慢のメニューは各地のご飯のお供の数々。お腹と心を満たそうと様々な客が訪れる。

山口先生 おすすめの本

インタビューの際、山口恵以子先生におススメ本を教えてくださいました。



今夜は
この本を
おともに

名作



『戦争と平和 1～6』
トルストイ/著 光文社

若さの馬力がないと、長編を読めなくなるので、若いうちに頑張ってお読みください。全部は無理でも2・3冊でも読んでみてください。

「若い方には背のびして世界の名作を
読んでほしい。『戦争と平和』とか大作を」

漫画



『シュートヘル 1～14』
伊藤 悠/著 小学館

数年前に読み夢中になった作品。13世紀初頭、中央アジアを舞台に滅びゆく国、西夏(せいしか)の文字を巡る戦いの話。壮大なスケールで、キャラクターが非常にチャーミング。巧みなストーリーテリングとアクションシーンなど絵も魅力的です。

「これを読んだとき、
小説負けてると思いました」

「小説は、一番サービスの悪い
エンターテインメントなんですよ」
小説には字しか書いてないので、ただ文字を読んでも全く面白くない。自分でその物語の中に入りキャラクターを思い描いて場面を想像したり、流れる音楽や料理を想像して、自分で頭と心をはたらかせるから面白いんです。10歳から25歳まで15年間、毎日頭と心をはたらかせる活動をしてきた人と一度もそういうことをやったことのない人は、心のありようが違ってくると思います。知能は同じでも知性に差がつくと思います。だから、お子さんに本を読むようすすめてあげてください。

図書館スタッフに聞きました

まだまだあります！

おいしい本

食

をテーマに、読むとお腹が空いてくるおすすめ作品をご紹介します。



『好きな食べ物が
みつからない』

古賀 及子/著 ポプラ社

何てことのない質問・・・かと思いますが、実は奥深い問いかもしれません。すぐに答えられる人も、うーんと悩む人も読めばきっと本当に好きな食べ物が分かるはずですよ。

エッセイ



『それからはスープのことばかり
考えて暮らした』

吉田 篤弘/著 中央公論新社

仕事を辞めた青年が、サンドイッチ屋で働くことになり、スープを作る係になります。読み返す度、心にとめておきたい言葉に出会える1冊です。

小説



たな/え・ぶん パイインターナショナル

おいしいパンが焼いてくれる何気ないパンが本当においしいそう！孫の成長にもほっこりします。最後にちょっとドキッとしますが、オチも最高です。

絵本



『たべるノフト。』
エッセイ

松重 豊/著 マガジンハウス

読んでいるうちに、ふと「腹が・・・減った」と口に出してしまいそうになるエッセイ。各話に添えてある味のあるイラストも欠かせません。ご本人のYoutubeに朗読版もあるのでそちらもおススメです。



『万丸食堂、
奇跡のソフトクリーム』
エッセイ

山本 悦子/著 理論社

岩手県に実際にある食堂がモデルになっています。名物10段ソフトクリームを食べた人に不思議なことが起こる優しい物語です。ちなみに、このソフトクリームは著で食べるんです！

児童書



『文士の食卓』
エッセイ

浦西 和彦/編 中央公論新社

芥川龍之介がお汁粉好きだったり、胃弱の漱石が絶食しながら、いつも食べ物のことを考えていたり、写真では難しい表情の文豪が食を前にすると飾らない人間の本質が出てくるのがくすりと笑えて面白いです。

絵本



『そらとぶパン』

深見 春夫/さく・え PHP研究所

子どもがこの本を大好きでいっしょに何度も読みました。おいしいようなパンのページを開くたび、「チョコレートパン!」「クリームパン!」と指をさしながらパンの名前を一緒に言っていたのが思い出です。